

10. キーワード

- | | | | |
|--------------------|---------|------------|--------------|
| (1) ソフトウェア開発効率化・安定 | (2) 可視化 | (3) 情報システム | (4) ソフトウェア工学 |
| (5) リアルタイムマネジメント | (6) | (7) | (8) |

11. 現在までの達成度

(区分)
(理由) 24年度が最終年度であるため、記入しない。

12. 今後の研究の推進方策

(今後の推進方策) 24年度が最終年度であるため、記入しない。

13.研究発表(平成24年度の研究成果)

〔雑誌論文〕計(2)件 うち査読付論文 計(2)件

著者名	論文標題【掲載確定】			
Raula Gaikovina Kula	Micro Process Analysis of Maintenance Effort: an Oss Case Study Using Metrics Based on Program Slicing			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
Journal of Software: Evolution and Process	有	10	2 0 1 2	電子掲載
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)				
10.1002/smr.1572				

著者名	論文標題			
尾花将輝	ソフトウェア開発プロセスの並列作業に基づくプロセスの複雑さの提案			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
コンピュータソフトウェア	有	29-4	2 0 1 2	278-292
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)				
なし				

〔学会発表〕計(5)件 うち招待講演 計(0)件

発表者名	発表標題	
Raula Gaikovina Kula	Experimental Study of Quantitative Analysis of Maintenance Effort Using Program Slicing-Based Metrics	
学会等名	発表年月日	発表場所
International Workshop on Software Quality and Management	2012年12月04日	香港

発表者名	発表標題	
Xin Yang	Understanding Oss Peer Review Roles in Peer Review Social Network (Person)	
学会等名	発表年月日	発表場所
19th Asia-Pacific Software Engineering Conference (APSEC 2012)	2012年12月07日	香港

発表者名	発表標題	
山田悠太	トピック抽出に基づく開発者の活動に着目したリポジトリ可視化手法	
学会等名	発表年月日	発表場所
情報処理学会ソフトウェア工学研究会	2012年11月02日	広島・広島市立大学

発表者名	発表標題	
平山力地	スライスに基づく凝集度を用いて自動分割を行うプログラム理解支援手法	
学会等名	発表年月日	発表場所
電子情報通信学会ソフトウェアサイエンス研究会	2012年07月28日	北海道・はこだて未来大学

発表者名	発表標題	
濱崎一樹	Android Open Source Projectを対象としたパッチレビュー活動の調査	
学会等名	発表年月日	発表場所
情報処理学会ソフトウェア工学研究会	2012年05月22日	東京・早稲田大学

(図書) 計(0)件

著者名	出版社			
書名			発行年	総ページ数

14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

(出願) 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

(取得) 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	

15. 備考

--